

学校協力活動紹介

学校協力活動とは地域学校協働活動事業の中で、授業や学校行事等の補助や図書の読み聞かせなど、子供たちが豊かな体験に基づいた学習をするためのお手伝いをするものです。地域ボランティアとして子供たちに自分の得意分野での指導に当たることもあれば、教員だけでは手の届かない環境整備のような支援をする場合もあります。子供たちは地域の大人とふれあうことで、地域社会の中で育っていることを実感しながら学ぶことができます。参加するボランティアさんにとっては、地域のよさや子供たちのいいところを再発見したり、自分の長所に気付かされたりすることもあります。今回は子供たちも大人たちも、一緒に生き生きと活動する姿やボランティアの声をご紹介します。

代陽小学校5年生裁縫実習

代陽小学校では、地域コーディネーター（代陽小は蒲生コーディネーター）が毎週金曜日の午後から学校に出向き、学校と地域を繋ぐ連絡調整を行っています。今回紹介する5年生家庭科実習補助は学校からの要望で企画されました。

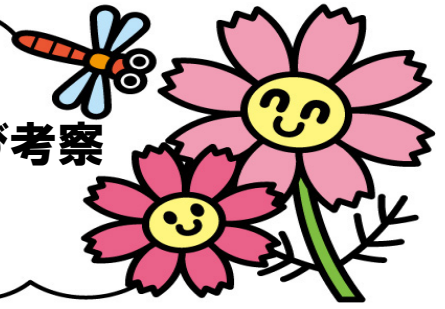
7月29日（木）ボタン付けの依頼が代陽校区婦人会にあり、9名の方が参加しました。当日の裁縫実習は、2つ穴と4つ穴そして1つ穴の3種類のボタン付けでした。ボタンの付け方の説明は、テレビ画面で大変分かりやすく、分からなくなったらテレビ画面を操作しながら学ぶ子供もいて、ビックリ！しました。ただ玉止めや糸通しが上手くできなくて、縫いはじめようとすると、通したばかりの糸が外れ、また糸を通すという姿があり、ボタン付けまでは進まない等個人差が大きいようで、支援の必要性を感じました。最初はお互いに緊張していましたが、丁寧に説明をしたり認め励ましたりしているうちにだんだん打ち解け、楽しい雰囲気になっていきました。

授業の始まりには、婦人会の方の自己紹介がありました。授業の終わりには児童のお礼の言葉と担任から感謝の挨拶があり、「来て良かった」という気持ちになり暑さも吹き飛び、充実した時間を過ごす事ができました。事後には校長室で、校長先生と談話の場もありました。地域婦人会の方と学校の先生方との距離が近まった時間となり、改めて地域学校協働活動を進めるうえで互いの信頼関係が大切であると感じました。

（文責：岡田統括コーディネーター）



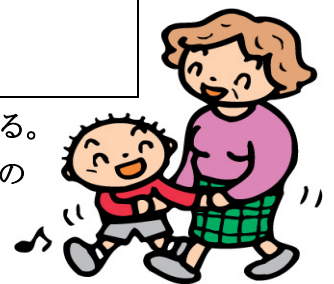
代陽小学校 地域支援者アンケート及び考察



Q1 子供たちを支援して良かったなあと思うときは、どんなときでしたか。

- ・自分を頼ってくれた時。うまくできたとき、お互いが笑顔になれた。
- ・普段、子供と接することがないので、一緒に歩きながら話せる幸せ。
- ・ひとり暮らしの私にとって、子供たちの元気で明るい笑顔が何より。
- ・「また来てね」など、子供たちからの嬉しい言葉に癒されます。

○子供たちの無邪気さや純粋さに触れることが、支援者の喜びにつながっている。
また、自分のサポートで子供たちの活動が円滑に進んだという実感が支援者の「やりがい」や「自己有用感」につながっている。



Q2 子供たちを支援する中で、困ったなあと思ったことはありませんでしたか。

- ・最初は視線を合わせようとしない子供もいたが、最後はうちとけた。
- ・話がなかなか噛み合わない子供もいた。

○子供たちはまっさらな状態で出会うため、予想しない反応などに戸惑う支援者もいる。
ただ、へんな先入観なしにお互いが向かい合うことも、協働活動のプラス面であるとも言える。



Q3 子供たちに伝えたいことは何かありますか。

- ・地域の人みなさんを見守っています。・元気でたくましく育ってほしい。
- ・活動を通して気づいたことを伝えていきたい。

○子供の成長を楽しみに見守っているという支援者の、ちょうど孫を見る温かい眼差しが、子供たちに安心感をあたえているのかもしれない。

Q4 学校と地域の連携・協力がさらに進むためには何が必要だと思いますか。

- ・普段から気軽に話し合える関係を築いていけたら、互いの思いも通じ合えるのではないかと思います。
- ・PTAとのコミュニケーションをもう少し図れたらと思う。子供の成長を支えていこうという思いは一緒なはずだから。

○学校とPTA、地域の三者が、より緊密に連携していくために、情報や課題を共有する場が必要になるだろう。協働活動とCSの機能を有機的につなげていきたい。

(○印の考察は蒲生コーディネーター)